



真実を求め  
真実を語り  
真実を行う



令和5年度妻中学校だより

5月号



妻中H.P

校長

伊東 泰彦

この通信の著作権は妻中学校が有します。無断で文章・画像などの転載を禁じます。

## 第76期生徒総会を開催！

5月19日(金)に第77期の生徒総会を開催しました。実はコロナ禍の影響により、本校で全生徒による対面開催をするのは四年ぶりです。会長の濱松さんに聞いてみると、さすがの経験豊富な生徒会も初めての体験でかなり緊張しましたし、

うまくいかないことも多かった。ともあれ生徒会スローガン「虹舞(こうご)のもと、各部の年間の取組目標や今年度の重点取組案について審議が行われ、行動指針が議決されました。こうした議決

が形骸化せず、年間を通して活性化していくよう、学校として生徒たちと歩み寄り、たいと思いません。また、議長・副議長の議事進行が大変見事だったと高い評価も寄せられた。います。生徒会の皆でお疲れ様でした。



本校では、4年ぶりの対面開催でした！



議長団や執行部も初体験で緊張したようです



発言の様子(上)  
採決の様子(右)



生徒会長に感想を聞きました

### 【生徒会長・濱松優菜さんのコメント】

コロナ禍のプランクがあって、実は総会は初の体験でした。うまく意見が吸い上げられない中、議長の菅原さんがよくがんばってくれたし、会員の生徒もよく発言してくれて助かりました。いい総会になったと思います。

### 【議長・菅原安悠さんのコメント】

実は私はこれまで、あまり人前に出るような仕事をしてきませんでした。今回、担任の先生に背中を押され議長という大役に挑戦しましたが、不安感からのスタートだったにもかかわらず、終わった後は大きな達成感を感じています。先生方にほめてもらったのも嬉しいです。率直な感想は「みんなの助けがあってこそ議論が成り立つのだと実感できたこと」。そして自分が最もがんばったことは「下級生にも分かりやすいように、出た意見を自分なりに翻訳して伝えていったこと」です。

これまで人前に出てなかった私ですが、自分を過小評価していたような気がします。これを機会に「私にもできるんだ！」という自信をもって、いろんなことに挑戦していくきっかけにしたいと思います。いい経験になりました。



### 施設や校則などについての改正要望について

生徒総会に合わせ、生徒の皆さんの学校生活に関する要望事項も出されました。これらの要望は、皆さんが「学校という一つの社会」をよりよいものにするために必要なことであり、今後のキーワード「ウェルビーイング」につながることであります。

改正が可能な内容については可能な限り対応していきたいと思えます。一方で校則に関しては、昨年度より「オール西都生徒会」による校則検討委員会を立ち上げており、市内の全中学校で検討していくこととなります。校内検討委員会での議論を経て、「6月13日にオンライン会議」、「7月21日にオール西都校則検討委員会」が開催される予定です。皆さんも知っておいてください。

# 妻高校の先輩方から学びました！



進路特別講座に来て下さった校長先生と本校卒業生

5月24日(水)、地元の妻高校に御協力をいただき「進路特別講座」を開催しました。これから進路選択を控える三年生に「高校とは何を学ぶところなのか、そしてどんな準備が必要なのか」などについて理解を深めてもらうのがねらいです。

三浦校長先生に加え、本校卒業生の江藤夏萌さん(普通科文理科学科)、野崎悠惺さん(情報ビジネス科)、加持夢逢さん(福祉科)の三名が来てくれ、中学生にとって分かりやすく具体的な話やアドバイスをしてくれました。今後は実際にオープンスクールに出向いたり高校説明会を聞いたりするなどの体感的な学びも始まるのですが、その前段としてとても有意義なマイนด์セットの時間になったと思います。こうした学びをぜひ今後につなげてほしいと思います。

【三浦校長先生より】  
高校とは：①何が出来る人になるのかを考えていく所、②社会性を身に付ける所、③今の自分を知り、努力を積み重ねていく所、④全国の高校生と競う所。高校三年間においては(通学も含め)時間をどう使うかがとても大事になってきます。

## PTA環境整備・奉仕作業へのご協力ありがとうございました！

5月21日(日)6:30よりPTAと生徒による環境整備作業を行いました。コロナ禍以来久しぶりの実施です。本校のグラウンドや校庭は、痛みも激しく丁寧な手入れ作業が必要なのですが、面積も広いため作業が欠かせません。シルバー人材の方々による定期的な環境整備に加え、今回のような奉仕作業がとてもありがたいです。全体としては77%の出席率でした。参加してくださった皆さん、ありがとうございました。



### 三真の轍 わたち

一度止まってみることに 妻中へ初勤務した

日、とても印象に残っているのが、事務室前の掲示板に生徒会が書いてくれた「今日の言葉」である。そこには、半ば私たちを試すかのように「一度止まってみることも、正しいこと」とあり、漢字分解の掛詞のような言葉がとても哲学的に響いてきたのを覚えている。とかく慌ただしい学校では、教師も生徒会諸君も一心に前を見て走り続けがちである▼OEDD提唱の「ラーニングコンパス」では、今後の激変社会を担う人材の資質中核として「生徒エージェンシー」が示された。要約すると「変化を起こすために自分自身で目標を設定し、**振り返り**、責任をもつて行動する力」である。この「振り返り(リフレクション)」こそは、昨今各界のキーワードであり、自分を客観し批判的に見つめ直すことで己の成長を促す志向性が自己指導力や人材育成の要諦となっている。変化が激しく正解のない状況では、常に自分の立ち位置や現アクションの有効性を振り返り続けなければならず、それは現代の大人も将来を担う子どもたちにも必須の資質ということだろう▼私事であるが、GW時に病気で入院静養することとなり、偶然にも「一度止まってみることを余儀なくされた。何かと気にはなつたが、米牧師ジョセフ・マーティ氏の「仕事は捗らないときはこう祈りなさい。この停滞は仕事の成就に必要なものなのです」を思い出し、バッテリーボックスで気が負いがちだった自分を見つめてみた▼健康や時間、食生活の大切さ、SNSの利便性、TVのCM戦略、社会との関わりと人間の尊厳との相関など、人生のマルチステージ化にも通ずる発見は多い。深くかかむことで高くジャンプできるというし、古代中国の老荘思想では無為自然の有用性も説かれていた。今回一度止まってみたことが「正しいこと」につながるよう振り返りを大切にしたい。(校長 伊東泰彦)